

## 北九州市公共事業評価に関する検討会議(第2回)

日 時：平成25年4月12日(金)  
10:00~12:00  
場 所：AIMビル3階会議室

(事務局)

定刻となりました。第2回「北九州市公共事業評価に関する検討会議」を開会いたします。

### 《配布資料の確認》

本日の会議では「(仮称)新球技場整備事業」について、2月28日の第1回検討会議を踏まえて論点整理を行いましたので、事務局より説明いたします。その後、事務局が説明しました論点につきまして、事業課から考え方を説明し、その事業課説明に対して、質疑応答を行う予定です。

それでは、ここからの進行は座長にお願いしたいと思います。

晴山座長、よろしくお願いします。

(座長)

それでは、「(仮称)新球技場整備事業」に係る論点について、まず事務局から説明をお願いいたします。

### 《事務局から「(仮称)新球技場整備事業に係る論点」の説明》

(座長)

ありがとうございました。

事務局において、先般の会議での構成員の皆様からのご意見につき、大きく事業の必要性、有効性、経済性・効率性といった評価の3大ポイントに沿って、各論点をまとめて整理していただきました。全体として分かりやすくまとめていただいていると思います。

次に、この論点についての考え方を事業課から説明していただきます。

説明は、全体を通して一括でしていただきますが、その後の考え方の説明に対する質疑応答は、それぞれ項目ごとに行うという段取りで進めさせていただきます。

それでは、事業課、よろしくお願いいたします。

## 《事業課から「論点に対する考え方」の説明》

(座長)

ありがとうございました。

ここから以降はスチールやテレビカメラ等の撮影はご遠慮お願いいたします。ご協力、よろしくお願い申し上げます。

今、事業課から具体的な事業計画に対し、前回の会議で構成員から提起された論点について、「(仮称)新球技場整備事業に係る論点に対する考え方」ということで、具体的な考え方を説明いただきました。

この事業課の説明を受けまして、これから具体的な質疑応答に入ります。

項目ごとに1点ずつ進めていきたいと思えます。

まず、論点の1、「事業の必要性」について、「ギラヴァンツ北九州について」と「市民説明の機会拡大及び市民意見の把握について」の2点が挙がっております。

まず、この項目に関して、ご意見、コメント、あるいはご質問等ありましたら、お願いいたします。

(構成員)

財務基準は、前回、私が質問した内容なので、幾つか伺います。

2011年決算で債務超過になってしまっているという状況ですが、そういう中で、資本金を見ると、2010年と2011年を比べて500万円くらい増資されているようです。

この文章を見ると「小口株主等による」と書いてありますが、小口株主というのは、どういう方が増資にに応じていらっしゃるのでしょうか。また、今後、どういう人を目的に、他の大口とか、多分、大企業なども既にある程度出資に応じていらっしゃいますでしょうか、それ以上に應じる予定があるのかとか、その見込みのあたりというのを教えてください。

もう1つは、3,600万円の債務超過というのを2年で解消するというのは、無理ではないかもしれませんが、ハードルはそんなに低くはないかなと思います。大幅黒字になったり、誰かが大規模な増資に応じてくれば、2年くらいで解消できるでしょうが、そんなに簡単ではないかもしれないなというふうに感じています。

その辺の見込みについても、少し教えていただければと思います。

(事業課)

まず1点目、増資する場合、こういった方がそれに応じていただける見込みがあるのだろうかという点です。

ギラヴァンツにお話を伺うと、一般の株主以外に1口5万円の持株会という組織があります。これはいわゆる「サポーター」と言われる方たちが、5万円ずつお金を持ち寄り、持株会を構成しているものです。今、実質的にギラヴァンツ北九州の株式構成のうちで、一番多い率になっております。手元の資料では人数までは分からないのですが、その1口5万円の小口株主の募集をもう一度行うといったことをクラブとしては考えています。

また、年間に500万円ほど増えています、この中には一般の株主の増加もあり、100万円、あるいは200万円という出資に応じていただいた方がいらっしゃったと聞いています。そういったものを合わせて今からやっていこうということだと思っております。

また、債務超過は決して小さい額ではないという点については、ご指摘のとおりだと思います。私どもはギラヴァンツ北九州に対して出資をしているわけではございませんので、株主の立場とは違いますが、北九州市としては、ギラヴァンツ北九州の事業の一部に対して補助金を交付している立場ですので、その補助事業が円滑に実施できる企業状況にあるのかという点を確認する意味で、経営状況を含めたクラブの現況報告等を求めており、市としては、こうしたことをこれからも継続してまいります。

それともう一点、これはクラブのガバナンスになってしまうのですが、現在、クラブの取締役として、主要な株主企業から社外取締役の派遣をいただいています。そうした方々を中心に、今後、増資を図っていく、あるいは経営上の単年度黒字の幅についても、もっと大きな額を出していけるような経営をやっていこうというようなことが進められていくと考えております。

(構成員)

収入の中に「その他」というのがあり、2010年と2011年で結構変動しているのですが、「その他」には補助金以外でどんな収入があったのでしょうか。

(事業課)

「その他」の収入で主なものは、例えば、サポーターの方がチームと同じユニフォームを着て応援しますが、そういうユニフォームの販売などのグッズ収入とか、サポータークラブ、要はファンクラブです。そのファンクラブの会費収入。それからJリーグからの分配金といったものが主なものです。

変動が大きい理由ですが、2010年に財団法人から、子どもたちの招待事業の原資として、一括でクラブに対して助成がありました。おそらく、それが2010年に

収入が膨らんだ大きな理由かと思っております。

（構成員）

そうすると、2012年は、2011年と同額くらいの金額になっているのですか。

（事業課）

2012年の決算明細を個別に見ると、グッズ販売などはすごく伸びているようです。ただ、Jリーグからの分配金等が、所属チーム数が増えたこともあり減っています。そういったものを相殺し、結果としてどうなるかというところまでは、確認はしていませんが、そんなに大きな変動ではないと思っています。

見込みですが、その他収入は、5%くらい増えるということです。

（構成員）

収入に占める入場料の額というのは、他のJ2リーグのチームと比較して、どうですか。普通ですか。

（事業課）

やや低くなっています。

観客数総数が少ないものですから、割合から言って、やや低いという状況かと思っています。

ただ、2012年と2011年を比較しますと、入場料単価を2012年に値上げしましたので、入場料収入そのものは、前年対比で増えています。

（構成員）

人数が減っているから、ここは減っているということですか。

（事業課）

クラブの総収入に占める割合で見ると、他クラブと比べて、入場料収入の割合が少し低いねという状況ですが、クラブの決算だけで見ると、前年対比では増えています。

（構成員）

広告料がだいぶ伸びているので、努力されている様子が伺えるわけですが、営業エリアとしては、やはり北九州に限定しているのでしょうか。これは、ファンクラブ層の拡大にも少し関係するかと思いますが、かなり広い範囲でやっているのですか。

(事業課)

どちらかという、やはり北九州地域が中心ですが、限定しているわけではないと聞いております。

(座長)

組織の継続的な維持存続という点に関して、財務の健全化というのは非常に重要なテーマだと思います。先ほどの事業課からの説明ですと、今の質疑応答の中で、例えばサポーターの会費とかという話がありましたし、中小株主を掘り起こしていくという点もぜひ進めていただきたい課題だと思います。

(構成員)

私は、具体的なことは何も知らないのですが、ホームタウンとして、ギラヴァンツ北九州を市民が我々のチームというふうに考えるためには、単にファンやサポーターというよりは、例えば市民株主として、市民に財務面でも貢献してもらい、コミットメントしてもらいたいというのは、今後クラブの運営上重要なテーマではないかと思えます。

機会あれば、クラブに対してもそういう財務健全化に向け、市民のすその広い多様な参加機会について、ぜひ検討してもらいたいということを要望しておきたいと思えます。

(座長)

市民説明の機会等の拡大、あるいは市民意見の把握について、何かお気付きの点はありませんか。

(構成員)

かなり細かく結果をお示しいただき、だいぶ内容が分かったのですが、やはり、自治会の非賛同が、割と多いですね。おそらく、一般市民の感覚に一番近いのは自治会だと思うのですが、そういう視点で見ると、まだまだ市民レベルでそんなに多くの人が賛成と言い切れるまでの理解は得られていないのではないかとというのが正直なところではあります。

さらに少し知りたいと思うのは、新たに市民説明の中で、コンセプトなどについても説明されているということですが、小倉北区の方は、こういうコンセプトを見て、何かすごくいいなと身近に感じると思うのですが、例えば、八幡西区の方で、本城陸上競技場から移ってしまうことを、若干さみしいというふうに感じている方などもいらっしゃるかもしれない。地域差、地域による意識の温度差みたいなものも、やはり少し把握しておくべきではないかと考えます。

行政区別でいいのですが、次回、もし、そういう形で集計ができるのであれば、知りたいと思います。

(事業課)

行政区別の集計結果を次回、お示しします。

(構成員)

アンケートについて、自治会で、年代的には30代の方、女性が低いとなっておりますが、そのあたりの要因はどういったことかという点について、単純にサッカーを知らない、嫌いだとか、そういった理由なのか、それとも、30代の女性というのは、子育て世代ですが、晩婚化が進んでいる中、子どもはかなり小さい段階だと思うのです。そういう方が、行きたくとも行けない。だから、自分の生活に関係がないから、非賛同なのかもしれない。そこらあたりの要因がはっきりすれば、賛同率が低いという理由が何か分かれば、どう対応すればいいのか明確になると思います。

我々、この資料を見たときに、その要因がある程度分かれば、仕方ないだろうというふうに納得できると思うのですが、数字だけであれば、ただ単に、もう非賛同で、一色で塗られてしまう。支持が得られていないというふうに捉えられるのは、少し違うのではないかと思いますので、要因分析をしたほうがいいのではないかと考えます。

アンケートの中に賛同しない理由なども書いてもらっているようですので、少し分析してみてもどうかと思います。

(構成員)

先ほど、意見があったように、私は本城のほうに住んでいますが、とてもさみしい気持ちがございます。

新球技場に本城からどうやって行けばいいか。試合のあるたびに行きたいけれども、できたらシャトルバスみたいなものを出すような計画があると、私たちはとても行きやすいと思います。

試合を見に行きたい一つの要因として、本城に住んでいる私たちは、よく「もう、ギラヴァンツは私たちのクラブよ」みたいな気分です。しかし、ほかの地域は、そこら辺はまだ薄いのもかもしれない、まだ、ギラヴァンツが全体的に知られていないということがあると思います。

私などはギラヴァンツの番組はいつも見ているので、そういう気分なのですが、友人と話していて、「ギラヴァンツってどう思う」という話をしたら、他の人はそんなことないです。

ギラヴァンツがもっと市民に浸透するよう、どんな選手がいるか等、もっともっと宣伝してもらいたいと思います。選手の顔と名前が、よくはっきり分かるような番

組をどんどん作ってもらって、顔と名前がすぐ分かるようにしてもらえれば、とてもファンになりやすいと思います。

(座長)

ありがとうございました。

時間がだいぶ過ぎておりますので、次に移りたいと思います。

論点2「事業の有効性」として、2点あります。

「新球技場のコンセプトの具体化について」、「PFI事業としての案件形成の方向性について」の2点が挙がっています。これらについて、ご意見、ご質問等頂きたいと思います。

(構成員)

PFIについて、2点伺います

まず、1点目として、どのような形式でのPFI事業を考えられているかということです。資料の説明を聞いていると、15ページ、16ページの事例というのは、設計、建設の部分だけという感じですが、今回はPFI事業として、運営までということですね。アンケートも50社を対象に聞かれたということなのですが、どういった企業を対象に行ったのか。建設会社だと運営のほうは難しいのではないかと、手が挙がるのかという気もするのですが、どのような企業を対象にしているか、PFIでお願いする部分がどこなのか、設計か、施行か、運営か、その辺りの状況をもう少し詳しく教えていただきたい。

2点目はこのPFIで手を挙げていただくというところがあるのかという質問です。単にこのスタジアムを運営するというだけだと、企業活動に対するインセンティブとして働きにくいのではないかと感じます。特に、環境面だとかいろいろと条件も付けていますし、それをクリアしてもなお、参入する意義がある事業でないと、手は挙がらないと思います。例えば、最近いろいろと話題になっている武雄市の図書館のように、事業者の自由度が大きければ、本業のスタジアム運営の部分でそんなに収益は上がらなくても、その他の部分でカバーできれば、かなり手は挙がりやすくなると思うのですが、その辺りはどのように考えていらっしゃるのでしょうか。例えば、テナントを入れるようなことまで考えているのか、単にスタジアムだけと会議室等々の管理運営だけなのか、事業者のインセンティブをどのように考えているのかというのを教えていただきたいと思います。

(事業課)

PFIについてですが、まず、事業の組み立てとしては、設計、施工、維持管理・

運営までをパッケージにして、それを 1 グループにお願いし、適正で高水準なサービスを市民の皆さんに提供してもらいたいということで想定しています。当然、設計、施工、維持管理・運営までありますから、関連する企業、例えば設計事務所、施工会社、維持管理会社、運営会社に事業体を作ってもらいたいなと考えています。リーダーになるのが、例えばゼネコンなのか、あるいは P F I 事業をいろいろ手掛けているコーディネーターなのかは分かりませんが、そこがリーダーになって、関連する企業がチームを作るというイメージを持っています。

具体的に事業を展開していくに当たって考えているのは、P F I の B T O 方式で、設計、施工（ビルディング）して、所有権を市のほうに移転（トランスファ）して、運営（オペレート）してもらおうという方式です。他のスタジアムの事例を調べてみても、スタジアム自体で収益がどんどん上がっていくという性格のものではなく、ごく普通の陸上競技場とかスタジアム、体育館と似ていますので、運営に当たって必要な経費は、行政側が負担すべきだと考えています。

加えて、インセンティブとして、事業者の進出意欲を少しくすぐる必要があろうかと思えます。例えば、民間が今回のスタジアムと一緒に何か施設を造って合築するとかいう可能性というのもあるのですが、今回は敷地面積が狭くて、やはりスタジアムというのが中心になりますので、まずはそれに必要な機能を設計・施工してもらおう必要があります。その上で、テナントとして、例えばスタンド下とかに余剰空間があります。そういったところで事業が展開できるのかどうか、そうした点は事業者アイデアを頂きたいなというふうに考えます。

自由度を与えると、先ほどの武雄の図書館の TSUTAYA さんのような、いろいろな事業展開もあるかと思えます。当然、スタジアムをしっかり維持管理・運営してもらおうということに加えて、少し視点を広く持ってもらって、周辺には国際会議場や展示場、ホテルもあります、それらの施設とタイアップできて、にぎわいづくりに貢献できるような、そういう提案を頂けたら、我々としてはスタジアムの整備プラスアルファの部分がありますので、非常にありがたいと考えています。

（構成員）

そうすると、もし仮に中心となる方が商業事業者さんだった場合、そこでは設計施工はできないので、設計施工会社と組んで手を挙げていただく、そういうイメージですね。

（事業課）

はい、そういうイメージです。

(構成員)

インセンティブの部分については、恐らくスペースがないだろうなと私も推察していたのですが、周囲の施設とタイアップというのは非常に重要だと思います。国際会議場やアジア太平洋インポートマートだとかもあります。また、都心部全体で人を回遊させながらにぎわいをつくっていくという考え方もあると思います。

魚町商店街や商業施設と連携してやっていくときに、よくショッピングセンターでやっていると思いますが、商業核とスタジアムという核をつくり、その中を回遊させていく、人の流れをつくっていくという意識でやっていくといい。そういうふうにしなないと、これまで魚町商店街等の中心商業地に来ていた人を取るだけでは意味がないと思います。やはり、連携が重要だと思いますので、ぜひその辺はご検討ください。

(構成員)

回遊性の話ですが、回遊するためには、その拠点の間に楽しめたり、関心を引くようなものが幾つか点在していないと生まれませんと思います。このスタジアムは、かなり魅力的な施設になると思いますが、問題は都心との間です。この検討会議の守備範囲の外だとは思いますが、周辺施設の機能の転換が、ひょっとすると求められることになるのではないかと。それがないと、回遊性は出てこないのではないかと。

あとは、その結果として、恐らく人々が歩いて行くのか、それとも駐車場を軸とするのか、その場合、点と点の間をとにかく移動するということになりかねないと思います。ですから、その間の回廊を魅力のあるものに変えていく必要から、例えば、ギャラリーをずっと並べるとか、いろいろな工夫が必要になってくるのではないかと。それがあってこそ、回遊性が出てくるのではないかなというふうに考えていますので、ご検討いただければと思います。

(座長)

回遊性という視点で、周辺施設とネットワークをつくっていくという、その移動の場、コストと効率性をどうやって高めていくのかと。何かそういう具体的な論点を、さらに深める提案をいただきました。

それから、先ほどあったPFI事業者に対する新しい、魅力的なインセンティブシステム、これもネットワークですね。このネットワークとかシステムとして、インセンティブをどう考えていくかというふうにしなないと、個別のものを、ただ思いつきで積み上げるのではなく、全体の大きなコンセプトの中でのインセンティブシステムや回遊性を高めるためのネットワークという部分について、今後、事業計画を作成する中で、さらに具体的なものが求められてきているということだろうと思います。

何か、他にありませんか。

(構成員)

コンセプトの具体化について伺います。

こういう「まちづくり」といった点については、やはり官民の連携、役割分担が非常に大事だと思っています。資料を見せていただくと、回遊性、まちづくりや、展示場とA I Mとの関連、駐車場などいろいろな話の中で、連携が必要になってくると思います。

そこで、市役所の中で、例えばこういうものを全部まとめていこうとする場合、どのくらいの部署が相互に連携をしていかないといけないのか。誰が市役所の中で音頭を取って、全体の話をしていくのかが決まっているのか、教えてください。

また、官民の連携の民のほうで、例えば、アビスパだったら、福岡女子大の和栗先生などは、学生を体験学習の授業の一環として、アビスパの試合前にイベントをやったり、試合中も一緒に応援をしたりとか、そういうところに学生を引っ張り出す取組みを行っています。それは、北九大も旦過市場でやっていますが、官がいくら働くとっても、民の力というのは必ず必要になると思います。その辺の連携の仕組みなども含めて、どういうふうに考えていらっしゃるのかというのをお聞かせください。

(事業課)

市の組織の中で、総括して担当する部局の設置については、この評価検討会議を経て、そのあとパブリックコメントや、議会への報告などの手続きを踏んだ上で、いよいよこの新球技場がG Oだということになった暁の段階になろうかと思えます。

ただ、今の段階でも、中心市街地活性化法に基づく、さまざまな事業がこのエリアで展開されており、そこを担当する部局が既にあります。新球技場整備事業は、中心市街地活性化の一つの大きなツールにもなると思いますので、そうした部局と話をし、音頭を取ってもらうとか、それから、現時点で、私どもがこの事業に関する説明会にお伺いする機会を提供していただきたいという話を、例えば、商業事業者を担当している部局など、さまざまな部局に協力をいただきながら進めていますので、そういったものを活用していきたいと思っております。

もう一点、民との連携ですが、1回目の評価委員会でも、同じご意見を頂いておりました。現在でも例えばグラヴァンツに関しては、入場チケットの半券を持っていくと、協力店で割引サービスが受けられるなどの取組みはやっています。こうしたものをどんどんお願いしていきたいと考えています。1回目の公共事業評価委員会の中でもお話をしましたが、他都市の成功事例というのが幾つかありますので、そうした事例を参考に学んでいきたいと考えています。

(構成員)

P F Iについてですが、まず、最初に要求水準を示し、設計施工、維持管理・運営

を一貫して行う事業者が決まる訳ですが、例えば、運営があまりうまくいっていない場合、例えば、人が集まらないとか、いろいろなところで問題が起きるとか、事業を行う能力がなかったり、運営がうまくいかなかったら、運営事業者を変えたりしますが、PFI事業で一番最初に共同企業体という形で事業者を決めてしまった場合、例えば運営の部分だけ後から切り離して事業者を変更するとか、それなりのペナルティを与えるとか、そういうことはできるのですか。

#### （事業課）

PFI事業の内容については、本事業の事業化が決定していませんので、グループに委ねる業務内容は決まっていますが、一般的には、グループと市が例えば10年間とか15年間にわたり維持管理・運営をしてもらう場合、行政側としても定期的に運営状況のチェックを行いますし、そのグループ内でもチェック体制を取っています。

途中で運営状況が良くない場合、ペナルティを科すこともありますし、最悪の場合、グループ内で運営を担当する会社を替えるといったことも可能にするような契約は可能です。

しかしながら、我々としても運営がまずくなるようグループを選択したくありませんし、多分、それはないと思っています。ご安心いただきたいと思います。

#### （構成員）

先ほどのアンケートについて、20代から30代という、できればサポーターとして球場に来て、にぎやかに盛り上げてもらいたいと思う世代の人数が少なく、全体で100人くらいしかいません。

ぜひ、北九州市立大学、九州工業大学、九州国際大学とか、20代、30代がいるところに出前説明会をして、アンケートを採ったら、数はたくさん集まると思いますし、PRにもなると思います。意外と学生たちは、短期間しか、北九州市にいないせいかもしれませんが、あまりギラヴァンツも知らないし、サッカーに興味を持っていないというのが現状です。

それから、またこれも、私の個人的なイメージかもしれませんが、よくサッカーを見に行く人というのは、ご主人とか本人がスポンサー企業に勤めていて、その関係でサービス券のようなものをもらって行くという方が多いので、入場者数は多いけれど、入場料を払っていない方というのが多々いるのではないかと。全部がそうではないと思うのですが、少しそうした印象を持っています。

それで、これは今後の話になりますが、スポンサー企業に勤めていない、ごく普通の企業の方、ご自身でお金を払って行かないといけないという方々に対して、もっとチームに対する関心や、球場に行きたいと思う気持ちを駆り立てるような工夫をしていく。ギラヴァンツ北九州の財政を強くするために、入場者数のところを上げていか

ないといけないと思います。例えば、学割などがあってもいいと思います。

(構成員)

若者をどう巻き込んでいくか、自治会と女性の賛同割合が低くなっていましたが、女性が来れば、男性も来るので、そこにてこ入れとするというのもあるし、あと、若者へのでこ入れもあると思います。先ほど、体験学習で授業の一環として、みんなで盛り上げていくという事例を紹介しました。市でもいろいろな先行事例とか参考事例を調べていらっしゃると思います。いいところを取って工夫していただければと思います。

(座長)

今後、この事業計画をスタートさせるために、より前向きな考え方でアクションを起こすべきではないかという、非常にポジティブなご意見を頂きました。

時間の関係がありますので、引き続き最後の論点に入ります。

「事業の経済性・効率性」について、「費用便益分析について」という1点が挙がっています。先ほど事業課から、基本的な分析手法、あるいは結果は、前回の検討会議の中で出したものがスタンダードではあるが、便益ということを見ると、もう少しいろいろな考え方があるのではないかと。仮説として、まちのにぎわいを便益と捉え値がかなり高くなるという案と、逆に現行の陸上競技大会と兼用している本城陸上競技場と、新しく小倉駅北口に建設する球技場との間の差を、厳密に検証すべきではないかというリジッドな案のいずれでも、B/Cは1を超えているという説明がありました。

要は、いずれを取っても、B/Cは1以上なのだという仮定、仮説を提示していただいたのだらうと思いますが、何かこの件についてご意見等がありますか。

(構成員)

確認ですが、先ほどPFIのところ、総投資額89億円という金額は、建設から運営から全て入っているとあるのですが、事業期間は何年くらいでこれを委託しようと思っていられるのでしょうか。また、その89億円で運営まで委託した場合、ランニングコストとして市で負担するものがあるかどうかについて、教えていただければと思います。

(事業課)

PFI事業の事業費に関するご質問です。

89億円というのは、道路の移設費用10億円と、スタジアム整備に関する設計施

工の79億円を足した建設までにかかる費用で、維持管理・運営費用というのは入っていません。

維持管理・運営に関しましては、他の類似事例、例えば福岡市の「レベルファイブスタジアム」や、鳥栖市、千葉市のスタジアムとかを調べたところ、年間で大体1億円くらいの費用が掛かっているという情報を頂いています。例えば、10年間維持管理・運営をお願いしようとすれば、その費用の10倍くらいが建設費用にオンされるというような感じになります。

PFI事業を実施する場合、事業範囲を事業者に明示しないとイケません。お願いしたい事業の内容はここからここまでです、事業期間は、設計・施行、維持管理・運営を含めて15年間、あるいは20年間ですとか、そういうことを我々が決めて公募に望みたいと考えています。

(構成員)

そうすると、PFI事業となったときに支払う金額は、これ(89億円)とは別問題ということになりますか。

(事業課)

はい。維持管理・運営に要する経費はそれにオンされていきます。あとは、どれくらいの期間で、事業者をお願いするのがいいのかということについて、指定管理者制度では、北九州市は5年間というのが多いのですが、5年がいいのか、10年がいいのか、15年がいいのか、思案しているところです。

(構成員)

今、ギラヴァンツ北九州が使っている本城陸上競技場ですが、これはJ2の基準に合わせて、観客席を1万人にするために増設しています。概算でいいですが、費用はどのくらい掛かっているのですか。

(事業課)

本城陸上競技場は平成元年に建築されて、ちょうど20年経っており、改修を迎えていたという時期と、ギラヴァンツ北九州がJリーグに参加する時期がちょうど重なっており、2億円から2億5,000万円かかっています。

もともとイスを替えないといけなかったとか、トラックを補修しないといけなかったとか、照明を補修しないといけなかったという時期と重なっていたので、あとはJリーグ仕様として座席数を増やしたというような感じです。

(構成員)

今回の新球技場整備の事業費と比較して、2億5,000万円はそんなに大きくはありませんが、本城陸上競技場もせつかく応分の負担をして改修しているので今後も有効に使っていただきたいと思います。

(座長)

ありがとうございました。

ただ今、論点整理について、事業の必要性、事業の有効性、事業の経済性・効率性、この3項目について、構成員の皆様からご意見、あるいは具体的なさらに踏み込んだ提案、新しい視点が必要ではないかとか、そういういろいろなご意見を頂戴いたしました。

本日の会議をそろそろまとめたいと思いますが、その前に、本日の3つの大きな論点に沿ったご意見を含め、あるいは、それ以外に、全体としてでも結構ですが、何かご意見、ご質問、あるいはコメントでも結構です。何かございましたら頂戴したいと思います。

(構成員)

だんだんギラヴァンツの知名度も高くなって、関心を持つ方も増えているのですが、今回、アンケートの結果を見ましても、60代、70歳以上でも賛同という方がかなりいらっしゃいます。ただ、この方々が頻繁にサッカーを見に行くわけでは決してないと思うのです。サッカーにはそれほど関心はないけれど、地元のスポーツチームを応援したいという方もかなりいらっしゃるということで、そういう人たちの力も借りていくような工夫、先ほどの、小口の出資をしていただくといった取組みは非常にいいのではないかと思います。単なる寄付ではなく、出資者という位置付けになると、関心も持続していけるだろうということで、そういう工夫をぜひお願いします。

(構成員)

この話が最初出たころのことを少し思い返してみますと、当初はかなり予算規模も大きくて、この事業のメリットの部分とデメリットの部分は、どうなのかなといういろいろ考えていたりしたのですが、だんだん話が具体化してきて、投資額がかなり抑えられて、その投資額に対する北九州市に対する起爆剤的な効果を考えると、バランスがとれてきたのかなという印象を受けています。

また、3番目の論点である「事業の経済性・効率性」のところでも、厳しく見積もっても、ある程度きちんといけるといところが評価できればいいのではないかと、私の提案に対して、状況別に計算していただきました。それでも1を超えるということで、事業としてもそれほどリスクが大きくはないのかなと思います。そうすると、

あとは、そのプラスの部分、便益をいかに伸ばすか。これは単に新球技場を造れば自動的に伸びるものではなく、新球技場を1つのツールとして、まち全体で、ギラヴァンツ北九州を含めて、みんなで盛り上げていくということが重要だと思います。

ここの部分を、ぜひとも北九州市民の皆さんが一体で取り組んでいただけるようになると、市としてはかなり期待できる事業ではないかと個人的には感じているところです。

(座長)

どうもありがとうございました。

今までの議論の経過を踏まえて、1つの総括、収束のようなまとめのコメントを頂きました。ありがとうございました。

長い時間かけて、本日、皆様から新球技場整備事業の具体的な計画について、非常に踏み込んだ、前向きで肯定的な、ポジティブなコメント、ご意見を頂きました。

まだ建設のゴーサインが出ているわけではないのですが、前回と今回でかなり議論が整理されて、建設に向けた通過点として、この検討会議の議論をまとめることができるのではないかと思います。

今回の会議全体を通して、現時点での到達点としての考え方を一応出しておくことは、次回の検討会議にとって非常に意味あることだと思います。

大変僭越なのですが座長として、現時点で皆様は、この新球技場の建設・整備について、本日の議論全体として、皆様は建設について基本的に同意する、あるいは、同意しなくても大きな異論はないのではないかとというふうにまとめたいと思います。基本的に建設に向けて大きな異論はない、あるいは同意する、いいのではないかとお考えになっていらっしゃるというふうにまとめてよろしいでしょうか。

どうぞ、率直なご意見を頂きたいと思いますが、どうでしょうか。

(異議なし)

(座長)

どうもありがとうございました。

新球技場の建設について、皆様、異論がないということです。現時点で、一応、検討会議としては皆さんからゴーサイン、お示しいただいたというふうにまとめることができます。

今後、具体的にこの整備事業を進めていくにあたり、本日、総括的に幾つかの論点——この事業についての必要性や、有効性、あるいは経済性・効率性という形で、細かな議論を幾つかやってきました。その結果、さらに進化した形でご意見をい

ただいています。

本日の議論の内容として、市民意見については、もちろん賛同が多いけれども、非賛同もある、その背景、要因分析をある程度やれば、今後の市民に対する働き掛けや、地域全体でどうやって盛り上げていけばいいのかということについて、さらに効果的な手を打てるのではないかと。

さらに、まちのにぎわいをつくるためのネットワークづくり、周辺地域、あるいは、産官学民、地域全体でこれを担いでいく。あるいは、この新球技場の建設を通じて、北九州市に新しい風を巻き起こしていく。そのためには、地域全体のネットワークづくりとか、そういうことが必要なのではないかと。これも、今後、さらに建設に向けて考えていく点だろうと思います。

さらに、PFI事業者をどう選定するのか。最も適切な能力が期待できる事業者を、どうやって選定するのか。そのためには、環境整備、特にインセンティブシステムというのをどう考えるかということ。このインセンティブシステムや、先ほどのネットワークというものを、単に、この検討会議や、担当しておられる事業課のレベルを超えて、地域全体でどう考えていくか。先ほど、そもそも北九州市にこういう全体のシステムとかネットワークをつくる担当部署があるのかどうかという議論が出ていましたが、やはり、これは全体として地域でどう考えていくかという、非常に大きく、しかも、非常に建設的なご意見も頂きました。

今、私の思い付くまま大きな論点を挙げました。これ以外にもたくさんご意見を頂きましたので、次回検討会議に向けて、検討会議の意見の素案として事務局のほうで作成していただくようお願いいたします。次回、事務局が作成した案について、さらに、より具体的な考え方を煮詰めたいと思います。

では、次回の予定につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

次回の検討会議は来週4月19日金曜日、午前10時から、隣の西日本総合展示場新館にある301会議室で開催する予定です。

先ほど、座長からご指示のあった内容について、事務局のほうで素案、資料を作成し、検討会議意見の素案としてお示ししますので、それについてご確認を頂きたいと考えております。

(座長)

それでは、本日の検討会議はこれで終了させていただきます。  
どうもありがとうございました。